

- 問1 戊辰戦争の終結地となった五稜郭をめぐる歴史的背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2024年 徳島県公立入試 類似）

1. 榎本武揚を中心とする旧幕府軍が、新政府軍に対して北海道で最後の抵抗を試みた。

2. 徳川慶喜が政権を朝廷に返上した後、新政府軍との対乱を避けるために隠居所として整備した。

3. 西郷隆盛ら新政府に不満を持つ土族が拳兵し、九州から北海道まで戦線を拡大させた。

4. ロシアの南下政策に対抗するため、江戸幕府が鎖国体制を強化する目的で建設した日本最古の城郭である。
- 問2 地租改正の実施に際して、明治政府が土地の所有を認めた証として所有者に交付し、その表面に地価や納税者名などを記載した証書を何と称しますか。（2024年 京都府公立入試 類似）

1. 地券

2. 藩札

3. 地租改正反対一揆の嘆願書

4. 株札
- 問3 明治維新において中央集権国家の確立を目指して行われた「版籍奉還」について、その内容と状況を正しく説明しているものはどれか。（2023年 香川県公立入試 類似）

1. 武士の特権を廃止して徴兵令を布告し、身分に関わらずすべての国民に兵役の義務を課した。

2. 全国の藩を完全に廃止して県を置き、中央政府から派遣された官吏が地方の行政を担うようになった。

3. 藩主が土地と人民の支配権を天皇に返上し、改めて政府から知藩事に任命されて旧領地の統治にあたった。

4. 土地の所有者に地券を発行し、収穫量ではなく地価の3%を税として現金で納めさせる制度を確立した。
- 問4 1800年代後半の日本の近代化に関する出来事をまとめた記述において、新政府の樹立を宣言した直後に発生した大規模な戦争の背景として、最も適切なものはどれですか。（2026年 岡山県公立入試 類似）

1. 長州藩や薩摩藩などの有力な藩が、外国勢力を武力で排除するためにイギリスやフランスなどの連合艦隊と戦った。

2. 廃藩置県や徴兵制などの新政府の政策に反対する各地の土族たちが、西郷隆盛を担いで最大規模の反乱を起こした。

3. 徳川氏の権力を排除して天皇を中心とする新政府を樹立しようとする勢力と、それに抵抗する旧幕府の勢力が武力で衝突した。

4. 開国後に物価が上昇し、生活が苦しくなった農民たちが、世直しを求めて各地で一揆や打ちこわしを繰り返した。
- 問5 1875年に明治政府がロシアとの間で締結した「樺太・千島交換条約」の内容について、北方の国境をどのように定めたか述べた文として、最も適切なものを選択してください。（2026年 埼玉県公立入試 類似）

1. 樺太と千島列島の全域を日本の領土として確定させ、ロシアの南下を阻止した。

2. 樺太全体をロシア領とし、得撫島より北の千島列島を日本領とすることで国境を画定した。

3. 樺太の南半分を日本領とし、得撫島より北の千島列島をロシア領とすることで国境を画定した。

4. 日露和親条約の内容を継承し、樺太を日露両国民の混住の地として改めて定めた。
- 問6 1867年に徳川慶喜が政権を朝廷に返上しましたが、倒幕派の諸藩は天皇中心の新政権を樹立するため、ある宣言を行いました。この宣言をきっかけとして、翌1868年から新政府軍と旧幕府軍との間で発生した約1年半にわたる内戦の名称として正しいものはどれですか。（2020年 香川県公立入試 類似）

1. 大政奉還によって始まった西南戦争

2. 王政復古の大号令によって始まった戊辰戦争

3. 廃藩置県によって始まった日清戦争

4. 版籍奉還によって始まった西南戦争
- 問7 明治新政府が示した方針の中に、「広く会議ヲ興シ、万機公論ニ決スヘシ」という一節があります。この内容が示している、新政府の政治の進め方として最も適切な説明はどれですか。（2017年 和歌山県公立入試 類似）

1. 広く会議を開き、人々の意見を尊重して政治を行う。

2. 国民一人ひとりに選挙権を与え、議会制民主主義を即座に導入する。

3. 天皇の権限を絶対的なものとし、一部の貴族のみで政治を行う。

4. 江戸幕府の仕組みをそのまま引き継ぎ、将軍が政治を行う。
- 問8 新橋・横浜間の鉄道が開通した1872年に、政府が公布した「学制」の内容や方針として最も適切なものを次の中から選びなさい。（2016年 高知県公立入試 類似）

1. 各藩が運営していた藩校をそのまま存続させ、土族の英才教育を強化した

2. 国家が教育費のすべてを負担し、教科書を無償で配布することを決定した

3. 身分や男女の区別なく、すべての国民が小学校教育を受けることを目指した

4. 天皇への忠誠や愛国心を育てることを教育の最優先事項として定めた
- 問9 明治維新の指導者の一人として活躍した政治家で、天皇を中心とする中央集権国家のしくみを整えるために、版籍奉還や廃藩置県などを強力に推進した人物は誰ですか。（2016年 福岡県公立入試 類似）

1. 徳川家光

2. 足利義満

3. 木戸孝允

4. 天武天皇
- 問10 1871年7月に記されたお雇い外国人の日記には、政府が藩を廃止し、全国を県に分割するという非常に大胆な決断を下したことへの驚きが記されています。明治政府がこの「廃藩置県」を断行した背景として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 島根県公立入試 類似）

1. 旧藩主の不満を解消するために、彼らに以前よりも強い自治権を与えるため

2. 軍事力と徴税権を中央政府に集約し、国家の基礎を固めるため

3. 全国の土地を農民に無償で分け与え、平等な社会を実現するため

4. 藩ごとの独自の通貨を奨励し、地域経済を活性化させるため
- 問11 1873年に始まった地租改正において、それまでの江戸時代の年貢の納め方から変更された点として、正しい説明はどれですか。（2017年 高知県公立入試 類似）

1. 土族が領主として、農民から直接米を徴収するようになった。

2. 土地の耕作者が、収穫量を基準にして米で納めるようになった。

3. 土地の所有者が、地価を基準にして現金で納めるようになった。

4. 村全体が連帯責任を負い、収穫量に応じた現金を納めるようになった。
- 問12 明治政府が地租改正において、納税の方法を「収穫された米」から「現金」による納入へと変更した主な目的は何ですか。当時の社会情勢や政府の意図をふまえて説明したものを選びなさい。（2022年 大阪府公立入試 類似）

1. 作物の作柄や米の販売価格の変動に左右されず、政府が安定した予算を編成できるようにするため

2. 土地を売買することを禁止していた江戸時代の制度を維持し、農民が土地を離れないようにするため

3. 農村での現金流通を促進することで、農民が自力で新しい農業機械や肥料を自由に購入できるようにするため

4. 地価の3%という税率が従来の年貢よりも大幅に低かったため、農民の負担を軽減して不満を抑えるため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 榎本武揚を中心とする旧幕府軍が、新政府軍に対して北海道で最後の抵抗を試みた。	戊辰戦争の最終段階において、榎本武揚ら旧幕府軍は北海道へ渡り、函館の五稜郭を占拠して新政府軍に抵抗しました。1869年に新政府軍の総攻撃を受けて降伏したことで、一連の内戦は幕を閉じ、明治政府による全国統一が完成しました。
問2	答え 1 地券	地租改正において政府は、全国の土地を測量して土地の所有者を確定させました。その際、土地の所有権を公的に証明し、納税の義務を明確にするために発行されたのが「地券」です。これによって江戸時代のような複雑な権利関係が整理され、土地が個人の財産として売買や担保の対象になるという近代的な土地所有制度が整いました。
問3	答え 3 藩主が土地と人民の支配権を天皇に返上し、改めて政府から知藩事に任命されて旧領地の統治にあたった。	版籍奉還は、形式的には土地と人民を天皇に返還させるものでしたが、実際には元の藩主がそのまま「知藩事」として各藩の統治を継続しました。そのため、政府が全国を直接支配する体制としては不十分であり、1871年の廃藩置県によって、より強制的な中央集権化が進められることになりました。他の選択肢は、廃藩置県、地租改正、徴兵令の説明です。
問4	答え 3 徳川氏の権力を排除して天皇を中心とする新政府を樹立しようとする勢力と、それに抵抗する旧幕府の勢力が武力で衝突した。	戊辰戦争は、江戸幕府が滅亡し、天皇を中心とする新たな政治体制が確立される過程で起きた権力争いです。王政復古の大号令によって徳川氏の領地返上などが求められたことに旧幕府勢力が反発したことが直接のきっかけとなりました。新政府軍は最新の兵器を導入して旧幕府軍を各地で破り、日本全国を統治する実権を握りました。これにより、新政府は廃藩置県などの抜本的な改革を進める基盤を得ることとなりました。
問5	答え 2 樺太全体をロシア領とし、得撫島より北の千島列島を日本領とすることで国境を画定した。	明治政府は、日本とロシアの国民が混住していた樺太（サハリン）での紛争を避けるため、国境を明確にする交渉を行いました。その結果、樺太の権益をすべてロシアに譲る代わりに、それまでロシア領であった得撫島（ウルップ島）以北の千島列島を日本領とすることで、北東アジアにおける領土の範囲を確定させました。
問6	答え 2 王政復古の大号令によって始まった戊辰戦争	江戸幕府が政権を返上した大政奉還のあと、薩摩藩や長州藩らを中心とする勢力は、天皇中心の政治に戻すことを宣言する「王政復古の大号令」を発しました。これにより新政府が成立しましたが、権力を失うことに反発した旧幕府軍との間で、1868年の鳥羽・伏見の戦いを皮切りに「戊辰戦争」と呼ばれる一連の内戦が引き起こされました。西南戦争は明治初期の士族による反乱であり、日清戦争は清との間で行われた対外戦争です。
問7	答え 1 広く会議を開き、人々の意見を尊重して政治を行う。	「公論」とは公の議論や世論を意味します。江戸幕府のような独裁的な政治ではなく、広く意見を取り入れて政治を決定していくという姿勢を示しました。この方針は、後の自由民権運動において、議会の開設を求める根拠としても利用されることになります。
問8	答え 3 身分や男女の区別なく、すべての国民が学校教育を受けることを目指した	学制は「村に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん」という理念のもと、国民全員に教育を普及させようとしたものです。これは富国強兵や殖産興業を支える人材を育成する目的がありました。当時はまだ授業料が家庭負担であったため、生活が苦しい農民などによる反対運動も起こりましたが、近代化の重要な一歩となりました。
問9	答え 3 木戸孝允	幕末の薩長同盟において重要な役割を果たした人物で、明治新政府では廃藩置県などの改革を主導しました。これらは、江戸時代まで続いていた藩の仕組みを廃止し、全国を政府が直接統治する中央集権体制を確立することを目的としていました。
問10	答え 2 軍事力と徴税権を中央政府に集約し、国家の基礎を固めるため	当時の明治政府は、地方の藩が独自の軍事力や徴税権を持ったままでは、近代的な改革を進めることが困難であると考えていました。旧藩主（知藩事）を解任して東京に住まわせ、政府が直接地方を管理することで、安定した税収の確保と強力な軍事力の形成を目指しました。これは当時の外国人も驚くほどの社会構造の根本的な変革でした。
問11	答え 3 土地の所有者が、地価を基準にして現金で納めるようになった。	江戸時代の年貢は「収穫された米」を納めるものですが、地租改正では「地価」を課税基準とし、納税方法も「現金」へと改められました。これにより、政府は農作物の作柄や価格の変動による影響を受けずに、予算を立てることが可能になりました。一方で、負担が重かったことから、後に各地で反対一揆が起こり、税率は2.5パーセントへと引き下げられました。
問12	答え 1 作物の作柄や米の販売価格の変動に左右されず、政府が安定した予算を編成できるようにするため	近代国家を目指す明治政府にとって、軍隊の整備や殖産興業などの諸施策を計画的に進めるためには、変動の少ない安定した財源が不可欠でした。米による納税では、凶作の際に収入が激減したり、米価が下がると実質的な税収が減ったりするリスクがありました。税率を地価の3%と定め、さらに現金で納めさせることで、政府は気候や市場経済の影響を最小限に抑え、毎年決まった額の予算を立てることが可能になりました。なお、この3%という税率は当時の農民にとって非常に重い負担であったため、後に各地で地租改正反対一揆が起こり、1877年に2.5%へと引き下げられることになります。